



ロゴデザイン：後藤章

公益財団法人武蔵野市福祉公社

武蔵野市福祉公社は、武蔵野市が全国に先駆け、昭和55年に設立した在宅サービス提供機関です。誌名「羅針盤」は、ご利用者を包括的に支援し、その人生と共に歩むサービスの基本姿勢を示したものです。

< 紙面より >

P.1

・ボランティアさん お待ちしていました！

P.2

・大先輩に聞いてみた！～福祉公社創設42年～

P.3

・はじめまして、よろしくお祈ります！（職員紹介）

・一緒に考えよう 老後の家計簿

・成年後見制度学習会・相談会の開催

・業務運営が評価されました

P.4

・お知らせ・リレーコラム

## ボランティア再開！

## ボランティアさん お待ちしていました！

### 北町高齢者センターコミュニティケアサロン



北町高齢者センターコミュニティケアサロンには、様々なセンター事業のお手伝いをして下さるボランティアの方々が在籍しています。新型コロナウイルスの影響により、感染防止の観点からご利用者と直に接する活動を中止していましたが、昨年11月頃より活動を再開することができました。

活動休止期間中は、プログラムで使用する下絵、名札キーホルダーやクッションカバーの作成等をお願いし、美術・手芸のボランティアの方々が「お仕事会」にて活動を続けてきました。園芸ボランティアの方々には、お庭のお手入れを引き続きお願いし、いつも綺麗な季節の花々を楽しむ事ができました。

現在では、フロアでのお茶出しの活動も再開し、ご利用者とのコミュニケーションやプログラムの一部準備をお願いしています。そして今年1月からは、新しいボランティアの方も加わり、以前のコミュニティケアサロンの賑やかな姿を少しずつ取り戻しています。今後も活気のある施設を目指し、地域交流の場を広げたいと思います。

(北町高齢者センターコミュニティケアサロン 村上)



# 大先輩に聞いてみた!

～福祉公社創設42年～

時代とともに歩み続ける福祉公社の変遷とともに、創設初期のエピソードや福祉公社への想いを伺いました。  
聞き手/広報委員:堀田、桑谷、宮地

ゲスト(写真左から・敬称略)

上田令子 / 平成10年入職、現・在宅介護・地域包括支援センター主査

荒井好美 / 昭和56年入職、現・北町高齢者センター長

服部哲治 / 昭和62年入職、現・成年後見利用支援センター長



福祉公社創設期の話をお聞かせください。

**服部** 福祉公社設立は「市長への手紙」が発端。土地を担保に介護費用や生活費の貸付(リバースモーゲージ)を高齢市民が訴えたことがきっかけ。創設1年で30人くらいの利用登録があり、職員はワーカー3人と事務2名、計5人で始まった。

**荒井** 当時は措置の時代。権利としての対等なサービス給付を希望し、有償在宅福祉サービスの登録をされた方も多し。家事援助や介護は「協力員」と呼ばれる地元の主婦が担った。町内会がないと言われる武蔵野市でも、市民力を福祉に活かす土壌はあり、協力員募集時には地元の主婦層100人以上の応募があった。

**上田** 有償在宅福祉サービスの担当ワーカーは、金銭管理、書類整理、通院同行、入院手続き等、あらゆる支援をした。元気な頃から、施設に入って亡くなるまでの連続した関わりがあった。その人の老いと伴走することで、濃い支援が出来た。

当時のエピソードをお聞かせください。

**荒井** 携帯電話もない時代。緊急連絡先は担当職員の自宅の電話番号を教えていた。夕食を作りながら利用者の話を聞き、夜は枕元に電話を置いて寝た。今のような安否確認の術がなく、緊急通報があれば現場に飛んで行った。

**服部** 毎週日曜20時にご利用者親族から自宅に電話があり…当時は大河ドラマが観られなかった(笑)。

**上田** 自転車やバイクで市内全域を訪問した。職員1人につき、40～50件以上は担当していた。昼夜問わず電話に出て、夜中に駆けつけて救急搬送同行、入院中のホスピスにご利用者の愛猫を連れて面会に行く…様々な支援をした。

**服部** ご利用者の多くは「親族の世話にならず一生を終えたい」という希望が強く、福祉公社の職員が親族機能を補完していた。「住み慣れたところでいつまでも」という創設当初からの理念を職員一丸となって支えてきた。

福祉公社の仕事をしてきて、人生に影響したことはありますか。



◀ご利用者の川路シゲ氏と、本人宅の縁側にて。川路氏は後にテンミリオンハウス第一号となった。  
(左:荒井、右:服部)

**上田** 多くのご利用者の人生に伴走してきた。認知症の方の老いていく生きざま、受容の辛さ。人それぞれ、その人らしさがあった。福祉公社での経験があったからこそ自分の家族の時にも冷静に考えられた。公社の職員だったからこそ出会えた人が沢山いる。

**服部** 健康保持期から没後まで一貫してその人を支えるダイナミズムがあった。公社でないと出来ないし、私の生きがいでもあった。

**荒井** ご葬儀にも数え切れないほど参列した。

後輩へのメッセージをお願いします。

**荒井** 人が好きでないと出来ない仕事。「ただ、話がしたい」というご利用者も多く、ご自宅で色々な話を伺った。皆さんも様々なことに興味を持って知識の幅を広げて欲しい。そして、ご利用者を支えるためには、自分が支えてもらうことも大事。辛いことがあっても笑い合える、部署内のコミュニケーションも大事にして欲しい。

**服部** 公社職員に求められるものは「品性」「知性」「情熱」!!昭和55年以来、公社が培ってきた「信頼」の暖簾がある。この無体の財産を後輩にも受け継いで欲しい。「ご利用者のために尽くす」全部署でその気持ちを堅持してもらいたい。

**上田** 自分たちのモラルは厳しく。厚い信頼を勝ち取るために信頼を裏切らないことが大事。誠実に。



諸先輩の福祉公社への熱い想いを伺い、身の引き締まる私たちでした。これからも、武蔵野市の福祉の発展のために、誠心誠意、業務に励んで参ります!

## はじめまして、よろしくお祈いします!

1月に入職した2人の職員に仕事の感想を聞いてみました。



高齢者総合センター在宅介護・地域包括支援センター

下平 朱美

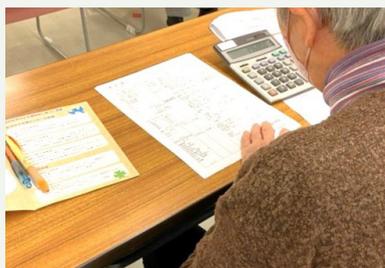
生活自立支援センター 渡部 理恵

令和5年1月から生活自立支援センターに入職いたしました、渡部理恵と申します。職種は相談員です。相談業務は初めてですので緊張していましたが、清潔で温もりのある職場環境で、諸先輩方に優しく丁寧に指導頂いております。生活に困窮している皆様の気持ちに寄り添い、自立に向けた伴走支援ができるよう、日々精進したいと思います。どうぞよろしくお祈いいたします。

1月から在宅介護・地域包括支援センターに勤務しています。以前は西多摩地区で働いていたので、武蔵野市がとても都会に思えます。入職して感じたのは、職場の雰囲気が良いこととチームワークが良いことです。一般的に地域包括支援センターでは、地区担当制で相談対応をすることが多いのですが、今の職場では地区担当制にこだわらず、皆で支援方法を検討することができるので、一人で抱えこまず楽しく仕事できています。これからも、学ぶ姿勢を忘れずに、業務に励んでいきたいと思っています。



### 一緒に考えよう 老後の家計簿



▲ 家計表を実際につけていただきながら、収支のバランスを確認しました。

1月の家族介護教室みどりの輪で、参加者と一緒に老後の家計について考え、「家計の見える化」の大切さを知って頂く機会をいただきました。

お金のことは、どの世代にとっても不安の種だと思います。今回は、事例を通して参加者と一緒に家計表を作成し、家計について意見交換をしました。参加者からは、「これは高すぎる」「今後に備え

て〇〇も必要」などの意見や、日頃から心がけていることや生活の知恵を話していただける場面もあり、私自身もとても勉強になりました。

「家計の見える化」は、家計改善の入り口であり、第一歩です。皆さんも一度家計表をつけて、老後に備えて収入と支出のバランスを考えてみませんか？

(生活自立支援センター 高岡)

### 成年後見制度学習会・相談会の開催

成年後見利用支援センター

令和5年1月28日(土)、武蔵野市商工会館ゼロワンホールにて、成年後見制度地域連携ネットワーク連絡協議会主催の成年後見制度学習会・相談会～専門職と学ぶ成年後見制度～を開催しました。

前半は、4名の専門職(弁護士、司法書士、行政書士、社会福祉士)が登壇。弁護士と行政書士が担当して制度の説明や2つのテーマについて各専門職の視点から具体的な事例を用いて後見事務の実際をお話いただきました。35名が参加されました。後半は、4職種



による個別相談を開催し、8名の方のご相談を承りました。

アンケートでは、「具体的な話が聞けてよかった、参考になった」という意見を多くいただき、大変好評でした。

次年度も市民ニーズに合致した企画開催を目指したいと思います。

(成年後見利用支援センター 塩野谷)

### 業務運営が評価されました

権利擁護センター

令和4年度第2回権利擁護事業等運営監視委員会が令和5年1月27日に開催されました。委員会では「出納件数が多い中、適正に業務執行ができています」との評価をいただきました。権利擁護センターは、これからもご利用者の皆様の信頼に応えていけるよう、健全な業務運営に努めます。

(権利擁護センター 高橋)

## 権利擁護センターより

講座



### ● 老いじたくの基礎知識

3月24日(金) 10時00分から11時30分  
@ 高齢者総合センター4階研修室

### ● エンディングノート講座

4月7日(金) 13時30分から15時00分  
@ 福祉公社1階会議室

相談



### ◆ 法律相談(成年後見関連)

毎月第2火曜日(次回は4月11日 午後/予約制)

### ◆ 法律相談(高齢者にかかる一般法律相談)

毎月第4水曜日(次回は3月22日 午後/予約制)

【問合せ・申込み】 権利擁護センター ☎ 0422-27-5070

## おむつのあて方・選び方

介護で大切な排泄ケア用品「おむつ」について、専門相談員がお話します。



【日時】 令和5年3月24日(金)

13時30分～15時00分(13時15分受付開始)

【場所】 高齢者総合センター 3階講義室

【定員】 20名(申込制)

【講師】 牧野 美奈子(武蔵野市住宅改修・福祉用具相談支援センター 排泄ケア専門員)

【申込】 事前にお電話にてお申込みください(3月1日～申込開始。定員超える場合新規優先)

【問合せ・申込み】 高齢者総合センター 在宅介護・地域包括支援センター ☎ 0422-51-1974



## 職員リレーコラム あっという間の25年

高齢者総合センター在宅介護・地域包括支援センター 上田 令子

平成10年4月に入社し、高齢者総合センター在宅介護支援センターに配属されました。当時10数年の病院勤務経験があり、それなりに看護師としての自信があったのですが、地域で相談を受け、訪問してみると、それまで患者さんの生活への配慮が全く不足していたことを痛感しました。

諸先輩方の電話対応や同行訪問から見よう見まねで経験を積み、定年なんてはるか先と思っていたのが、気が付けば当時の諸先輩の年齢を超えています。本当にびっくりです。高齢者が自分の年齢に驚く場面を数多く見ましたが、自分も過ぎてみるとあっという間です。多

くの相談を受け、たくさん的高齢者と関わる中で、いろいろな人生を垣間見、生き方も人それぞれであることを学ばせていただきました。この仕事をしていなければ、狭い価値観のままだったと思います。

電話1本でも一期一会。人の名前や顔を覚えるのが苦手な私でも、なんとか続けてこられました。公社職員のみなさんも、人との出会いを楽しんでお仕事頑張ってください。



今回は



高齢者総合センター在宅介護・地域包括支援センター 長尾 琴音

### 福祉公社 各部署のご案内



<ホームページ>

◇ 武蔵野市福祉公社 <https://www.fukushikosha.jp>

◇ 武蔵野市地域包括ケア人材育成センター

<https://www.m-machigurumi.jp>

◇ ホームヘルプセンター武蔵野

<https://help-musashino.jp>

営業時間 8時30分から17時15分(すべて共通)

### 武蔵野市福祉公社 本部

武蔵野市吉祥寺北町1-9-1

総務課 ☎ 0422-23-1165  
権利擁護センター ☎ 0422-27-5070  
成年後見利用支援センター ☎ 0422-27-1238  
生活自立支援センター(三鷹サテライト) ☎ 0422-66-2801  
ケアプランセンター ☎ 0422-27-5076  
ホームヘルプセンター武蔵野 ☎ 0422-23-2611  
地域包括ケア人材育成センター ☎ 0422-20-3741

### 武蔵野市立北町高齢者センター

武蔵野市吉祥寺北町4-1-16

コミュニティケアサロン ☎ 0422-54-5300  
子育てひろば・みずきっこ ☎ 0422-38-5150

### 武蔵野市立高齢者総合センター

武蔵野市緑町2-4-1

管理・社会活動センター ☎ 0422-51-1975  
在宅介護・地域包括支援センター ☎ 0422-51-1974  
住宅改修・福祉用具相談支援センター ☎ 0422-51-1974  
デイサービスセンター ☎ 0422-51-2933

## 広報委員会

編集後記

別れの季節。近年発展したSNS(ソーシャルネットワークサービス)は、そのような概念をなくしつつあるのでしょうか。私の身の回りでは未だにご縁を感じる機会が残り、今なお人間が自然の一部であると感じています。

またとない出会いと別れを尊び、目の前の人を大切にすることを、日々重ねて行きたいものです。

(生活自立支援センター 米良)